

本科（食物栄養科・保育科）学力検査等の内容や試験問題（試験問題、解答又は解答例、出題意図）、合否判定の方法及び基準）

●2025年11月22日（土）実施分

・対象となる入学試験

一般推薦入試（学校選抜型）、系列高等学校入試（学校選抜型）、社会人（I期）入試

・自己表現文試験問題及び出題意図

<問題①>

外山滋比古著『失敗の効用』pp.139-141 みすず書房

（著作権の都合により掲載は控える。）

<問題①の出題意図>

課題文は、日常生活において、関係する相手に対して、ちょっとした気遣い、思いやりをもつことの大切さを述べており、本学の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）にある、「高等学校卒業までに獲得が期待される（中略）基本的な生活態度」と重なりのあるものである。

入学後は、様々な場面で、主体的に考え、行動するとともに、多様な人々と協働して学ぶことが必然となる。そのような観点から、この文章は、自己のこれまでの在り方を見つめ、振り替えることを促す力を把握しようとするものである。

<問題②>

角田光代著『あなたを待ついくつもの部屋』pp.208-210 文藝春秋より

（著作権の都合により掲載は控える。）

<問題②の出題意図>

課題文には、高校時代の美術部の恩師から投げかけられた、いくつかの言葉が引用されている。例えば『こうでなきゃ、という思いこみが世界を狭めてしまうのよ』、『こんなことできないとか、こんなこと無理とか言っていたら、ぜんぶできないし、全部無理よ』、『あなたにしかできないことが、あなたたちはなんだってできる』などである。

これらの言葉について、受験生がどのように受け止め、どんな考えをもったか、表出させたいという意図がある。それは、本学のアドミッション・ポリシーの「主体的に考え、行動し、多様な人々と協働しつつ学ぶ態度を有しているか」について見取るとともに、大学で学ぶことへの姿勢や可能性や期待感を把握しようとするものである。

・対象となる入学試験

自立支援入試（総合選抜型）

・基礎学力試験問題及び出題意図

<全体>

自立支援入試（総合型）では、本学のアドミッション・ポリシーに基づき、入学後の各学科での学びにつながる学力の三要素のうちの「知識・技能」および「思考力・判断力・表現力」を把握する問題を出題している。そのため、国語、数学、英語を含む一般教養に関して、国家公務員試験初級レベルを基準とした問題を出題している。

●2026年2月2日（月）実施分

・対象となる入学試験

一般選抜A入試（一般選抜）

・試験問題及び出題意図

<全体>

一般選抜（個別テスト）では、本学のアドミッション・ポリシーに基づき、入学後の各学科での学びにつながる基礎学力である「知識・技能」と、問題を多角的にとらえて、適切に判断し表現することができる「思考力・判断力・表現力」を重視した問題を出題している。

2026年度の各科目のそれぞれの出題意図は以下の通りである。

<国語（近代以降の文章のみ）>

本科目において、「知識・技能」については主に漢字の知識や文脈に沿った語句の運用力等を問う問題を出題し、また「思考力・判断力・表現力」については文章の読解力と論理的な文章表現力を問う問題を出題した。入学する学科は様々であっても、短期大学ではそれぞれの専門分野の文献や資料を読み解いていくことになる。そのため国語の学力試験では、そのような専門的な文献や資料を読み解くための力が身につけているかどうかをはかる必要がある。したがって高等学校卒業までに、漢字や語句の知識やそれらの運用能力、またさまざまな文章を読み解く力を身につけなければならない。

出題範囲は、高等学校学習指導要領（平成30年告示）「現代の国語」「言語文化」の範囲とし、本学では論理的な文章読解力と文章表現力を重視しているため、「現代の国語」「言語文化」の教科書の内容と同程度の難易度の文章をもとに「論理的な文章」を題材とし、両科目の教科書で学んだ知識と能力を用いて正答を導き出すことができる程度の問題を出題した。

<英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、論理・表現Ⅰ>

本科目では、今日の社会問題や多様な出来事に関する文章を適正に理解するためや、同意・反意などの簡潔な英文や英会話の完成するための語彙・文法・表現・言語の機能などの知識と運用力を習得できているか、またその背景にある多文化的な知識の有無を測定することで、総合的な英語運用能力を評価する問題を出題した。また、英語の慣用句等の表現の理解とそのことについて日本語での表現が適正か否かを測定することで、英語表現の知識の有無と、言語間の表現力を評価する問題も出題した。

<数学Ⅰ、数学A>

本科目では、高校数学の数学Ⅰ・数学Aの範囲内で、数学の基礎学力が身についているかを判定することを目的としている。一般的な教科書に基づく基礎的な知識を前提とし、計算力や論理的思考力を問う問題を出題した。対象となる範囲は、数学Ⅰの「数と式」「二次関数」「図形と計量」「データの分析」、および数学Aの「場合の数と確率」「図形の性質」の6分野である。

各分野の出題数は以下である。

- ①「数と式」：小問5題
- ②「二次関数」：小問5題
- ③「図形と計量」および「図形の性質」：小問4題
- ④「データの分析」：小問3題
- ⑤「場合の数と確率」：小問3題

合計20題を出題し、各問題は、基礎的な内容の理解力や計算力を問うものに加え、応用力を試す問題で構成されている。

<化学基礎>

入学後に講義を理解するために必要な基礎的な学力を有するものを選抜する。出題は、高等学校の化学基礎で学習する内容の中で基礎的な内容を中心とし、稀に発展的内容も含まれており、実験内容や実験結果を読み解く問題も出題する。これは、科学的な視点から考えることができるか、論理的な思考ができるかを判断することを目的としている。

出題範囲は、化学基礎の内容で、①化学と人間生活(化学と物質)、②物質の構成(物質の構成粒子、物質と化学結合)、③物質の変化とその利用(物質と化学反応式、化学反応、化学が拓く世界)の3つの範囲である。

<生物基礎>

入学後に講義を理解するために必要な基礎的な学力を有するものを選抜する。出題は、高等学校の生物基礎で学習する内容の中で基礎的な内容を中心とし、稀に発展的内容も含まれている。また、与えられた資料やデータから自ら思考・解析する能力を有するものを選抜するために実験結果を示した表やグラフを読み解く問題を出題している。これは、科学的な視点から考えることができるか、論理的な思考ができるかを判断することを目的としている。

出題範囲は、生物基礎の内容で、①生物と遺伝子(生物の特徴、遺伝子とその働き)、②生物の体内環境の維持(体内環境の維持の仕組み、免疫)、③生物の多様性と生態系(植生の多様性と分布、生態系とその保全)の3つの範囲である。

●2025年2月7日（金）実施分

・対象となる入学試験

一般選抜B（Ⅰ期）入試（一般選抜）、大学中退者入試（特別選抜）

（*社会人（Ⅱ期）入試（社会人選抜）、外国人留学生入試（特別選抜）、帰国生徒入試（特別選抜））

（注）*印は同日開催の予定であったが志願者がいなかったため実施せず。

・自己表現文試験問題及び出題意図

<問題①>

鷲田誠一著『〈ひと〉の現象学』pp. 174-175 筑摩書房

（著作権の都合により掲載は控える。）

<問題①の出題意図>

課題文は、現代社会において、人々は、環境、文化、慣習、性など様々な分野で「多様性」を肯定的に捉えているのに、人格についてだけは、なぜ「多様性」を病理だとして否定的に捉えているのか、と問題提起している。

現行の教育課程で重視されていることの一つに「思考力・判断力・表現力の育成」ということがある。高等学校で培ってきたそれらをカとして、提起されている問題について、主体的に考え、判断して、自分の考えをまとめ、表現する力を把握しようとするものである。

<問題②>

山梨日日新聞の「風林火山」（2024年12月29日）

（著作権の都合により掲載は控える。）

<問題②の出題意図>

昨今、多くの事件や問題にSNSが絡んでいることから、課題文に出てくる事例を、受験生が自分事としてとらえて考え、これらの諸問題に対する筆者の結論（「興味がない」「わからない」では自分や子どもの身を守れそうにない。正しい情報か、相手は何者かを「判断する力」と自分の情報を「守る力」といったネットリテラシーを全世代で身に付けたい）について、受験生自身の考えを表出させることを意図している。

これにより、本学のアドミッション・ポリシーの『社会貢献の基礎となる自立した一人の人間としてのコミュニケーション力を有している』かを見取るとともに、将来専門職を目指す学生として、基本的な生活態度が身に付いているかを把握しようとするものである。

●2025年3月7日（金）実施分

・対象となる入学試験

（一般選抜B（Ⅱ期）入試（一般選抜）

実施の予定であったが志願者がいなかったため実施せず。

専攻科保育専攻（Ⅰ期：学校選抜型）の学力検査等の
内容や試験問題（試験問題、解答又は解答例、出題意図）、
合否判定の方法及び基準）

●専攻科Ⅰ期入試：学校選抜型

・試験問題 1（60分）

問 1. あなたが専攻科への進学を希望する理由を述べてください。

問 2. 次の事例を読んで、設問に答えてください。

【事例】

あなたは保育所で働いています。給食の時間、Kちゃん（4歳、女児）は、Lちゃん（4歳、女児）に「一緒に給食を食べよう」と言って、Lちゃんの隣の席に移動しました。その時、すかさずTちゃん（4歳、女児）が「だめ！Lちゃんは私と一緒に食べるの！」と、とても強い口調で言いました。Kちゃんはその言葉を聞いて泣いてしまいました。

【設問】

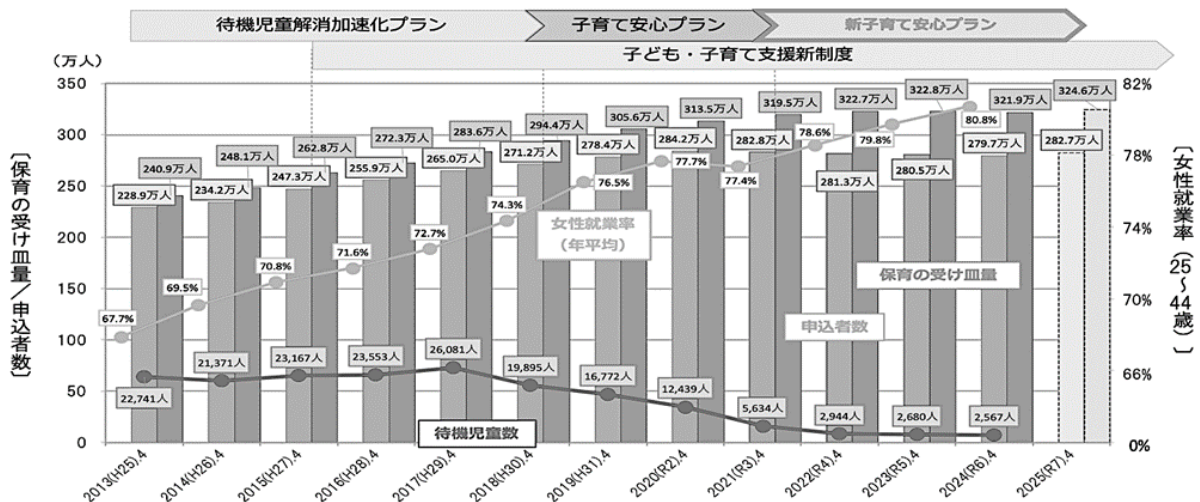
3人の子どもの様子をそばで見ているあなたは、この状況に対してどのように対応しますか。その対応をするに至った理由もあわせて回答してください。

（平成 30 年保育士試験科目「保育実習理論」より、一部修正）

問 3. 図.1 は、保育所等待機児童・保育の受け皿・女性就業率について、2013 年から 2025 年にかけての推移を示したものです。この図から、待機児童に関する特徴を読み取り、改善された点および課題とその改善策についてあなたの考えを述べてください。

図. 1 保育所等待機児童・保育の受け皿・女性就業率

※こども家庭庁「保育所等関連状況取りまとめ（令和 6 年 4 月 1 日）及び「新子育て安心プラン」集計結果 概要資



・試験問題 1 の解答例

問 1. 私が専攻科への進学を希望する理由は保育の知識を増やし、スキルを高めたいからである。短期大学で学んだことを生かしながら、専攻科での活動に取り組んでいきたい。また、週に 1 度の研修があり、実際に現場に行くことで、実習だけでは学べないことも多く学ぶことに魅力を感じた。

私が山梨学院幼稚園に実習に行ったとき、専攻科生がインターンで来ていて、毎週、紙芝居の読み聞かせをしたり、子どもたちが楽しく遊べそうな教材をつくったりする姿を見て、憧れを抱くとともに、園児理解はもちろん、教材を考える力、想像力や発想力も同時に身に付けることができると思った。それに加え、1 日の流れや保育者の仕事、保護者との関わりも把握し、実際に就職した時と同様に園の仕事に関わることができるため、自分のためになる素晴らしい研修機会だと感じた。

進学後は、授業や研修、たくさんの実践的な活動を通して専門的知識を増やし、よりステップアップした保育者になることが夢である。そのために日々の授業に積極的に参加し、研修ではその日の反省をしっかりと行い、次の週の研修で課題を活かし、毎週、実践知を更新させていきたい。幼稚園教諭 1 種免許用取得を目指し、日々努力していきたい。

問 2. 私が保育士としてこの事例のような場面が訪れた際には、3 人それぞれの思いを受容し、共感しながら、状況の解決を試みる。まず、K ちゃんが泣き出しているので、K ちゃんのそばに寄り添うことが必要である。それと同時に、この状況では、K ちゃんと T ちゃんの間で争いが起こっているため、双方の思いを聞き出し、お互いの気持ちを確かさせるようにする。具体的には、「K ちゃんが L ちゃんと一緒に給食を食べたいと思った理由」と、「T ちゃんが L ちゃんと一緒に食べたいと思った理由」とをそれぞれから聞き出し、それぞれの理由を受容し共感を示す。その上で、2 人の間にどのような争点があるのかを明確化し、互いに納得できるように対話を試みる。また、当事者でもある L ちゃんの思いも確認しながら、三者間の対話も可能になるようにしていきたい。以上のようにして、この事例に対しては、受容と共感をベースに対応しつつ、子どもたち同士の対話と、子どもたち同士での納得と解決を導けるような手立てを行いたい。

問 3. この図から、2013 年から 2017 年にかけて待機児童数が増加しているが、2017 年以降では待機児童数が減少していることがわかる。その要因として、保育の受け入れ量が増え、申込者とのバランスが取れたことが考えられる。2013 年から 2017 年にかけては申込者数および保育の受け入れ量ともに増加傾向にあるが、その増加量がどちらも同等の量であったため待機児童の解消には至らず、待機児童数も増加してしまっただけではないか。しかしながら 2017 年から 2020 年にかけては申込者数の増加量よりも保育の受け入れ量の増加量のほうが大きく、待機児童が減少したのではないかと考えられる。さらに、2021 年以降については、申込者数が減少し、保育の受け入れ量は増加しているため、待機児童数の減少がより一層進んだのではないかと考えられる。このように申込者数と保育の受け入れ量のバランスが取れてきたことにより、待機児童数が減少したことが改善された点である。しかしながら、申込数と保育の受け入れ量にはまだ十分な差があるにも関わらず、待機児童数は 2023 年から 2024 年にかけて 113 人の減少にとどまっている。これは、保育を必要とする子どもがいる地域の保育の受け入れ量が足りていないことに起因しているのではないかと考えられる。子どもの生活する地域に十分な受け入れ量があれば待機児童はいなくなると考えられるが、地方の少子高齢化や都市部への人口流出などにより地域ごとに必要な保育の受け入れ量は大きく異なると予想される。地域によって保育の受け入れ量が申込数に見合っていないため、待機児童がゼロになっていないのではないかと考えられる。そのため、各地域の申込者数と保育の受け入れ量を調査し、本当に必要となるところへ必要な保育が提供できるよう、保育の受け入れ量を地域ごとに調整するような改善が必要となる。

・試験問題 1 の出題意図

- 問 1. 専攻科保育専攻への進学を希望する理由について、動機、身に付けたいこと、将来の展望など、明確に自身の考えをもっているのかを判断するため。
- 問 2. 「受容」「共感」といったキーワードが使用され、保育者主体の解決ではなく、子どもを主体とした解決方策を実践しようとしているかどうかを判断するため。
- 問 3. 統計のデータを正確に読み取り、客観的な指標のもとで、子どもを取り巻く環境の特徴を捉えることができるかどうかを判断するため。

・試験問題 2

過去 2 年間分の「保育士試験」の問題を参考にして、「保育原理」5 問、「教育原理」3 問、「社会的養護」2 問、「子ども家庭福祉」5 問、「社会福祉」5 問、「保育の心理学」5 問、「子どもの保健」5 問、「保育実習理論」5 問の、合計 35 問を出題。
(著作権の都合により掲載は控える。)

・試験問題 2 の解答例

(著作権の都合により掲載は控える。)

・試験問題 2 の出題意図

保育士試験で出題される問題と類似した問題に対して一定以上の成績を取ることができるかどうかを判断することで、専攻科に進学できる程度の知識の定着度とその応用力を図るため。

・面接 (20 分程度)

- ・ 形態：グループによる面接試験
- ・ 内容：志望学生の動機・自己概念、短大生活の振り返り、ことばによる自己表現、専門的課題への興味関心の 4 観点より、ランダムに出題

・合否判定

<方法>

GPA、筆記試験、人物評価（面接含む）

<基準>

- ・ 筆記試験（明確な進学動機、保育・教育現場における問題解決力、保育・教育に関する問題における読解力）
- ・ 筆記試験（保育に係る個別学力試験の得点「保育原理」、「教育原理」、「社会的養護」、「子ども家庭福祉」、「社会福祉」、「保育の心理学」、「子どもの保健」、「保育実習理論」）
- ・ GPA（2年間の学習成績の状況）
- ・ 人物評価（面接含む）（「本学への志望動機」「専門職・将来に対する目的意識」「資格取得に関する意欲」「他者との協調性」「言葉遣い・姿勢・話し方」）4年一貫教育プログラムの評価（活動の様子、幼稚園実践活動の準備・教材研究の取り組み、幼稚園実践活動の実践・振り返り）
- ・ 実習評価（保育所及び幼稚園の実習成績の状況）

●専攻科 I 期入試：一般選抜

実施の予定であったが志願者がいなかったため実施せず。